

車いす利用者のための観光ルート

伊藤夏美 入野遼佑 岡野嵩大 坂入寧々
槻木俊介 西脇大智 松島基倫 松村美里

杏林大学医学部1年「地域と大学」Kグループ

【目的】

三鷹市には平成27年度現在、4253人の身体障害者がいて、そのうち約過半数が肢体障害者¹⁾である。そして同市では『三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想2022』というプロジェクトが行われており、すべての人が住みやすい街づくりに取り組んでいる。そのプロジェクトの概要をもとに、市内を巡ることで地域の良さを再発見してもらうことを目的とし、肢体障害者の中でも特に移動が困難だと考えられる車いす利用者に目を向けて、車いす利用者のための観光ルート作成を試みた。

【方法】

まず第一段階として東京都産業労働局が作成した東京観光バリアフリー情報ガイドの三鷹・吉祥寺のルートを、実際に車いすに乗って辿った。その時に感じた不便さをまとめ、車いすのみでまわるルートとバスを用いてまわるルートという二つの新ルートを作成した。また、それを作る際、車椅子の介助が最低限に済むようにいくつかの条件を設定した。

次に第二段階として新ルート作成後、再び車いすに乗ってルートを辿った。そしてバスを利用するルートでは実際にバスに車いすで乗りこみ、新ルートが快適であるかの調査を行った。

【結果及び考察】

新ルートは三鷹市から出発し、いくつかの観光スポット

を巡った後、三鷹市内の障害者施設等の自主製品のアンテナショップとして販売促進事業を行っている施設で食事を行うというものにした。既存のルートの一部経路において足場が悪かったのに対し、新ルートでは全経路において、平坦で車いすが通っても歩行者が通れるほどの幅がある道路を採用した。そのため移動距離は既存のものより長くなってしまったが、それをカバーする目的も含めてルートの途中で休憩地として飲食店を入れることにしたので、実際車いす利用者がこのルート通りに行動したとしても不便さは特に感じないと思う。また、バスを利用するルートでも運転手の方が車いす利用者の移動に協力してくれるので滞りなく楽しく観光できるだろう。

新ルートを作るうえで、道路や観光地の選択など様々な困難があった。しかし、この経験によって、三鷹市が地域住民のために多くの取り組みをしているのだということを知り、実際に体験することで、その取り組みが実現されつつあるということを知ることができた。これから良い街を作るための1つの柱となる医療に携わるであろう私たちも、今回の経験を通して地域住民のこと考え、寄り添える医師を目指して努力していきたい。

【参考文献】

- 1) 三鷹市都市整備部都市計画課、平成28年3月、三鷹市バリアフリーのまちづくり基本構想2022（第1次改定）